

希 望

チユウリツヒ日本人学校便り

平成 28 年 1 月 25 日発行

第 36 号

発行人 校長 鈴木史良

アクションプランの発動

—— 学校自己評価の結果をもとに 3 学期の改善策を実施 ——

2 学期末に行われた本校の学校自己評価結果につきまして、1 月 11 日付学校便り第 34 号で紙面公開させていただきました。すでにご覧いただいたことと思いますが、全体的には肯定的なご意見が多く、本校の教育にご理解、ご協力いただいていることがよくわかり、改めて心より感謝申し上げます。小規模校ならではの問題点もありますが、逆に、小規模校の“強み”も生かしながら、教育の質をレベルアップしていきたいと思えます。

また、学校の目指す方向性や、指導方法が十分達成されていないというご指摘につきましては、所期のねらいを達成すべく、改善できるところを洗い出し、できる部分はすぐ改善して、その効果が今学期内に少しでも表れるよう努めていきたいと考えていま

す。以下は検討が必要な箇所と具体的な※アクションプランです。

【児童生徒のまとめ】から——

1 学習について

学習の準備をして授業を迎えた 肯定的 79% 否定的 21%

2 生活について

礼儀正しい言葉遣いができた 肯定的 64% 否定的 36%

時間いっぱい掃除に取り組んだ 肯定的 75% 否定的 25%

3 友達や集団について

自分のよさを知り生活に生かした 肯定的 77% 否定的 23%

アクションプラン 1 ⇒ 授業終わりに黒板消し、次時の準備をする。

アクションプラン 2 ⇒ 授業中は敬称（～さん）、敬語を使う。

アクションプラン 3 ⇒ 掃除の始めと終わりのあいさつをする。

アクションプラン 4 ⇒ 全校児童生徒が集う場で、仲間のよさを伝え合う。（場を設定）

【保護者・教師のまとめ】から——

2 生活について

清潔で安全な学習環境の確保 肯定的 67% 否定的 33%

3 開かれた学校づくり

特色ある教育活動 肯定的 89% 否定的 11%

アクションプラン 5 ⇒ セキュリティーカメラ 2 台を設置する。（運営委員会承認）

アクションプラン 6 ⇒ 授業時間中の 3 階を施錠し、中・昼休み監視体制を再確認。

アクションプラン 7 ⇒ 学期内に体験的学習を組み入れた授業を実施する。

※アクションプラン・・・学校自己評価により、所期の目標やねらいについての達成度を把握し、何がよくて何が悪かったのかを分析し、次はどうすればよいかという具体的な方策です。

〈講話会〉弓削田さんの大きな夢にふれて

〈子どもたちの感想〉より

わたしも単なる趣味で作曲したりするのですが、人との出会いや出来事をもとに、ぱっとすてきな曲を思いつく弓削田さんがすごいと思いました。つい、生きることが当たり前になってしまっているけれど、それだけでもすばらしいことなんだということに、改めて気づきました。

わたしの夢は気象予報士になることです。夢があれば何でもできるということに気づいたので、がんばりたいと思います。(小学部6年生)

1月18日(月)の5校時に、今年度3回目の講話会を開きました。講師は音楽家の弓削田健介(ゆげた けんすけ)さん。日本では各地を旅行しながら、年間200回近いコンサートをおこなっているそうです。そういう活動を通して、小中学生のための合唱曲を作曲したり、またPTA大会などのテーマソングを作曲、演奏したりするなど、教育の場にかかわりの深い楽曲を多数作曲されています。今回、ご縁あって、チューリッヒ日本人学校で演奏してくださいました。

ピアノ弾き語りの最初は「はなみずき」という楽曲。歌い始めた瞬間から、高く澄んだ歌声と歌唱力に魅せられ、ここが体育館であることを忘れるほどでした。次曲の「ビリーブ」とともに、歌詞には作り手の思いやメッセージが込められていることに気づかせてくれました。コンサートが佳境に入るにつれ、ご自身が影響を受けた言葉や人物、自分の背後に見える祖先の人々のいのちの連鎖への思い、ホスピスを訪問し余命短い人々との交流をとおして感じたことなど、自ら作詞作曲した楽曲を歌いながら、けだかく美しいメッセージを私たちに伝えてくれました。“いのちはかけがえのないもの、だからこそのいのちのある限り自分の夢を大切に生きていこう”と。富士山頂で手をつなぎ合って輪をつくり、合唱する夢まで実現させた弓削田さん。まさに弓削田さん自身が実践している生き方そのものに他なりません。自分の信じた道をまっすぐに歩んでいる弓削田さんの生き方に心洗われた思いでした。



体育館に弓削田さんの美しい歌声が響く



弓削田さんのメッセージに聞き入る子どもたち